

●廊下や階段を歩行中であったとすると、震度5程度で、ほとんどの人が物にすがりたいと思ったり、恐怖やめまいを感じたりする。直立が困難になり、その場で立ちすくんだり、物につかまないと歩けなくなったりする。震度6になると、周りの景色がぐるぐる回るように見えたり、足元がさらわれ、立っていることができなくなる。床が波打ったようになり、つまづいて歩行不可能で、這ってしか動けなくなる。このような状況になっても、いざというときには廊下や階段を使って避難をするのだし、ふつうは障害物、転倒物となるような大きな物は置かれていなければ、位置的には有利であると思って、心を落ちつけましょう。また、エレベーターからは直ちに脱出してください。

●屋外の建築物の近くにいたとすると、総合科学部のメインの建物は、基礎工事もしっかりととしてあるはずなので、大きく倒壊することは考えられません。しかし、震度5程度で、壁のタイルなどの化粧剤が部分的に落ちるとか、ガラスが割れて落下するなどは生じうるでしょう。従って、上からの落下物に注意する必要があります。

落物 注意 (ガキナビ)



このように、さまざまな状況が考えられますが。全てを列記することはできません。阪神大震災の後、関係の書物がたくさん出版されました。中でも、被災者の経験談は特に参考になるでしょう。安価な物としては朝日新聞社から出ている『大震災100人の瞬間』や『阪神大震災再現、1995・01・17・05・46』(いずれも新書タイプ)などは読みやすく、得るところも大きいので、一読をお薦めします。

最後に、地震をはじめとする自然災害から身を守るために、運はもちろん必要でしょうが、身のまわりのものの異常を感じとれるアンテナをふだんから磨いておくこと、生きのびたいと願う気持ちを危機的な状況の中でも持ちつづけることが、特に重要であることは言うまでもありません。



●車を運転中であったとすると、

震度5程度で、自動車のタイヤがパンクしたような感じとなったり、ハンドルがとられて運転が困難になる。停車中の車両が移動して、他の物にぶつかったりすることがある。自転車はよろけて運転できなくなる。従って、地震を感じたら、即刻ブレーキをかけて、車を停止させ、安全なところへ避難できる体制を整えることが必要です。停止しているはずの車が急に踊り出すこともあり、これにも注意してください。

3. 神戸で見たこと・考えたこと

桜井直樹 (自然環境研究コース教授)

私は、第二次救援隊の隊長として、1月27日(金)広島商船高等専門学校所有の広島丸に乗り学生・教職員22名とともに神戸に向かった。活動内容は、神戸商船大および周辺の公園に避難していた約500名に近い人々への昼食の提供である。

私は、人間の価値や考えは、非日常的な時に最もよく現れると日頃考えている。何か突発事故が起きたときの行動が、その人の本性で、その人が日常何を言っていても、それはそれ、これはこれである。結婚式でスピーチする人が当人のエピソードを話すが、それは大変意味があるとおもっている。

そのエピソードを書いてみたい。

到着して3日目くらいの朝、私たちがテントの中で昼食の準備をしていると、中年の女性たち15名くらいが、外で何か大声で興奮して話し合っていた。その輪の中には、神戸市から派遣されていた若い職員が立っている。輪からはずれていたもう一人の若い神戸市職員の人に聞いてみた。その人々は、体育館に避難している、この地区的婦人会の人たちで私たち広島大のボランティア活動に協力するかどうかを議論していたらしい。

発端は、神戸市の派遣職員が、「ボランティアをしてもらってばかりで、あなた方もそれに少しでも協力すべきだ。」と言ったことにあったらしい。しばらくすると、その中から一人のおばさんが抜け出してきて、「あんな議論にはついて行かれん。」と言しながら、私たちが切っていたおつけもの用の白菜を切りだした。手つきがさすがと思っていると、「私は毎日給食を作っていたから」と言う話。そのうち外にいたおばさんは引き上げてしまった。神戸市の職員に聞くと、「ボランティアに協力するくらいなら、明日から昼食はいらない」という結論になったという。私は頭

が真っ白になってしまった。

まず第一に、私たちは自分から手伝ってほしいと言っていない。第二に、避難所となっている体育館には、お年寄りもたくさんいる。その人たちの分もいると言ったのだろうか? 第三に、神戸市の若い職員を責められない。彼らは、私達たちのボランティアを見ていて、被災者とボランティアがともに協力しあいながら、この危機を乗り切って行くべきだと考えたのだろう。しかし、被災者には倒れた家がある、被災証明を受ける手続きがある、仮設住宅の話を聞かねばならない、勤めがある。それらをこなすにも、交通手段がない。歩くしかない。それにまだボランティアの手伝い?

5分後に神戸市の職員を連れて、体育館の婦人会の代表者に面会し、「あなた方は手伝う必要がない。もしまずくて食べられないと言うなら話は別だが、昼食はこれまで通り配給します。」と言った。次の日からまたいつものよう

に昼食が配給された。その

日、昨日手伝ってくれたYさんはどんな気持

ちで、昨日の議論を聞いていたのだろうか? 私達の隊には、医学部からの医師が含まれていた。その人たちは、神戸商船大の保健室に被災者用の診療所を作る気持ちでいた。話は付いているとのことであった。ところが我々が医療用の薬品・器具を運ぶと、その保健室の医者が「ここは神戸商船大の職員と学生のための保健室である。」と言う理由で受け入れを拒否した。当時、当然学生は一人も大学に来ていない。職員もほとんど出勤していなかった。

日頃何を言い、何を考えても、いざというときに自分の本性がでると言うことを、身にしみて感じた5日間であった。



岡 峰 麻祐子 (地域文化コース 3年)

私が見た長田

長田はケミカル産業が盛んなところです。ケミカルとは、つまり「化学」なんですが、合皮の靴の生産が特に有名で、地元の人たちは「ゴムの仕事」などと言うようです。ただ長田の町は大工場が建ち並ぶようなところでは決してなく、靴底を造る工場、裁断をする工場、皮を縫う工場というように、製造過程ごとにわかれ中小規模の工場が、住居・商店街・学校などと一緒に建っていて、そこに暮らす人々のうち、かなりの人が直接又は間接にケミカル産業と関わっています。

地震と震災後の火災によって壊滅的な被害を受けた長田はそんな町でした。特に火災による被害がもつともひどい地域でもあり、火災で亡くなった方のほとんどは長田の人たちだそうです。ケミカル産業は工場のほとんどが製造不能、再開の見込みもないという状態となりました。人々は、家や財産、身近な人の命に加え、職業まで失ってしまいました。下町の人間のあたかさ、古くて安いアパートが多く、また物価も安く年金暮らしのお年寄りが安心して住むことができました。しかし神戸市は、住民の意見に全くふれることなく、高層マンションの建設などの復興計画を発表しました。今回の地震を通じて、道路の整備や公園や防水槽などを完備しておくことの必要性は誰もが感じたことですが、住宅問題に関する市の計画案は、住民の希望にそぐわないものでした。

私は市へ住民の意見をもりこんだ計画案を提出しようという目的で行われたアンケート調査にボランティアとして参加しました。主に住宅のことを聞いてまわったのですが地震から2ヶ月にならない時期だったこともあったので、今後の見通しなど全く立たず住宅のことなどまだ考えられない状態の人がかなりいて、ショックを受けました。多くの人は、仮設住宅への入居を希望していましたが、特にお年寄りの方は、遠く離れた土地で新しい人間関係を築かねばならないことに不安を抱いていました。お年寄りにとってそれまで築き上げてきた住環境がどんなに大切なもののなかを思い知りました。



考えさせられたこと

土地の問題、お金の問題など、人々の口からでる言葉がかなりシビアなもので、何もできない自分を悔しく思いました。「ホンマに大変なのはこれからや」という言葉が現実の厳しさを物語っていました。精神的に極限状態にある人たちと話をして、初めて人の気持ちに共感することがどんなに難しいことなのか、そして人間のもうさ、醜さ、強さ、あたたかさというものをふれられた気がしました。また、ボランティアの役割などが問題となってきた時期もあり、ボランティアってなんだろうということを考えました。

神戸から帰ると、全く普通の今までと同じ生活が待っていました。当たり前なのですが、電車で数時間しか離れていないのに、と不思議な気持ちさえしました。そして、テレビで報じられる神戸と、現実の神戸に、時間的なズレがかなりあることをもどかしく感じました。「今、神戸はどうなっているんだろう」という気持ちが、しばらく頭から離れませんでした。仕方のないことですが、特集のようなものは「神戸のその後」などという題目で1、2ヶ月ほど前の映像しか伝えられないのです。テレビが映すものは必ずしも現在形ではないことを今まで知らなかった自分にもショックを受けました。そして長田の火災の上空を飛んだ報道陣が映したのも決してその下で人々が体験したことを映していたのではないんだと思うと、なんだかやりきれない気がしました。

今回の地震は、本当にたくさんのことを行なってきました。私は普段よりもとてもたくさんことを考えました。そしてそれらはまだ消化しきれています。これから先、消化しきれるかもどうかも疑問です。地震からもう半年がたとうとしていますが、長田の町は未だに焼け跡のにおいがするそうです。長田では住民が街作り懇談会をつくり、6月に街作りの提言書を提出したそうです。あるおじさんが「長田の人間が散り散りになってもたら、長田の町は復興せん。」と言っていました。私も、これから長田の町を作っていくのは長田の人たちでなくてはならないと思います。私は直接何かすることはできませんが、ずっと応援したいと思います。この体験を通して、私が今まで持っていたおしゃれな神戸のイメージは、見事にくつがえされました。今までよりもずっと神戸が好きになりました。

しゃべくり

内 山 敬 康 (生体行動科学コース教授)

エッセイ

学位を取り、博士研究員として渡米している小田司君が2年ぶりに里帰りし、5日間研究室に滞在して、また帰っていました。アメリカの大学での生活にゾッコンなのである。彼の話を聞き、5日間滞在中の彼の過ごし方を見ていて、特に嬉しかったことが2つある。

1つは、米国のアカデミー社会の素晴らしい点を理解し、その中で生活することの幸せを私と共感してくれたことである。その素晴らしさを一言で言えば、純粋に科学を愛することを人生の真の生き甲斐として認める国民性であろうか。「実際にあちらで生活してみなければ、日本でいくら聞かされても本当のことは分かりませんよ。自分の知らないかった新しい実験法について教えてもらったことがあります。実に丁寧に（英語の苦手な私に）教えてくれました。しかし、もっと感動的だったことは、しばらくしてから‘実験はうまくいったか’とわざわざあちらからたずねてきてくれたことです」そういう小田君の目は光り輝いていた。意欲と能力があれば、それを100%活かすよう皆がお互いに配慮する。それができるのは、科学に対する宗教的ともいえる愛情である。院生には全て貸与でない真のスカラーシップを与え、一年365日の間24時間利用できる実験室と図書館を用意し、必要な実験器具や薬品がすぐ手にはいるストックルームが同じビル内にある—何れをとっても素晴らしいが、言うなれば形の上のこと、重要なことは、それを実現する原動力、科学に対する真の愛情と情熱を持った人たちがそこにいることなのである。



それ以上何が要るというのか。

2つ目は、私から頼まれもしないのに、下は4回生から私のような還暦を過ぎた教授まで、研究室の内外、誰それを問わず一人一人と話し合うことに大半の時間を使ったことである。最初の日は殆ど一日中私としゃべり通しだった。適切な助言や励ましを受けたものは感動していた。天然物の合成や量子科学の分野のリーダーであったウッドワード教授の研究室のセミナーは一般に開放されており、毎週その時間にはボストン中から集まる人たちで駐車場は一杯になった。聴衆はウッドワード研のプログレスを全部聴けるのである。

DNA二重ラセンの研究でクリックと共に有名なワトソン教授は、自分が金を出して西海岸から人を招き、自分のグループのメンバーでもない人と研究上の議論をしてくれるよう依頼したことがある。私は平素そのようなことを学生諸君に話してきたが、小田君自身がその精神を理解し実践している姿みて感動し、幸せを感じた。

五木寛之は近著の中で‘まず喋ること’の重要性を説いた蓮如の話を紹介し、そのことを強調する‘しゃべくり’という言葉を使っていいる（『生きるヒント』角川文庫）。キリストは‘共に祈れ’と教えた。一人の抱える問題に周りの人が関心を持ち、誠意を持って一緒に考えることの重要性を示したのである。

Fulbright上院議員は最近亡くなったが、彼の努力で第二次大戦後実現した世界的規模の人物交流計画は、異なる国の人々が共に生活し直に話し合うことにより、戦争という暴

力に訴えない世界を人間の知性により実現できる、という彼の信念に基づいており、戦後50年目の今日、益々光り輝いている。

研究では特に、お互いに喋ることが新しい発見につながる大きなヒントを与えてくれることは皆さんがご存知の通りである。しかし一方で、研究に携わる者が喋りを阻害する誘惑を非常にたくさんかかえていることも事実である。自分を立派にみせたいスノップ(snob)は恥をかくことを恐れて質問できない。常に競争意識に縛られている者は何とか自分を相手より上に格付けしようとするあまり、フランクに話し合うことができない。私は、そのような人をひそかに狂犬と呼んでいる。曰く、科研費、曰く、自己評価、は何れもこの傾向を助長する。功名心にかられている者は、手柄を独り占めにしたいばかりに、同じチームの人間に対してでさえ、或いは同じが故に隠そうとする。自分の力を過信する者、

自我の強すぎる者は、自分が勉強することにしか関心がない。研究が進むか否かはそっちのけである。研究が進まないときはそれを隠し、ひたすら一人で悩む。

しかし皆さん、落ちついて考えましょう。人生は短いのですから研究生活を楽しみましょう。名誉や地位は結果であって目標ではなく、幸せを運んでくるものではありません。われわれの生きる時間が極楽であるか地獄であるかは一日一日を周りの人と話し合うことを楽しみに生きるか否かにかかっているとおもいます。そのような集団であって初めて立派な仕事ができ、眞の賞賛を勝ち得ることができるとおもいます。いきつけの散髪やさんから聞きました。「広大の学生さんの中にはものを言わない人がいる。代金を払うときも財布を開けたままじっと待っている。ついに私は言った。‘おまえが値段を聞くまで私は言わない！」この散髪やさんは不幸です。



24年目の理解

嶋 陸奥彦 (地域文化コース教授)

70年代の初め、留学先のトロントの日系カナダ人会館で、日本語教室の手伝いをしたことがある。ある日、授業中、一人の参加者に「あなたの名前は何ですか？」と尋ねたところ、「ン」这样一个返事が返ってきた。もう一度「あなたの名前は何ですか？」と聞くと、また「ン」と尻上りにいう。その人は教室に通い始めたばかりだったから、日本語がよく解らないのかもしれない。そう思って今度は“What is your name?”と言いたい直した。すると彼は「私の名前は“ン”と言います。Ng」と書きます。漢字では“ゴー”という字を書きます。」と流暢な日本語で答えたのである。

“ゴー”と言ったときの柔らかく軽いGの子音が、なぜか印象に残った。香港から来た人だった。私は彼の日本語の力を測りそこねたことを恥かしく思いながら、広東語にはNgという姓があるのだと理解した。“吳”という文字が目に浮かんだ。

さて、今年4月の下旬、台北の下町で社会調査をしている大学院生K君の紹介で、私は黄氏宗親会の幹事をしておられる方にお目にかかる。中国人・中国系の人々は、父系の血縁を非常に重視する。同姓であることは究極的には血の繋がりを意味する。宗親会というのは、同姓者たちが親族として構成する組織である。つまり台湾の黄氏宗親会とは、清朝時代以来、大陸から台湾へ移住してきた黄氏一族の組織なのである。案内された建物の

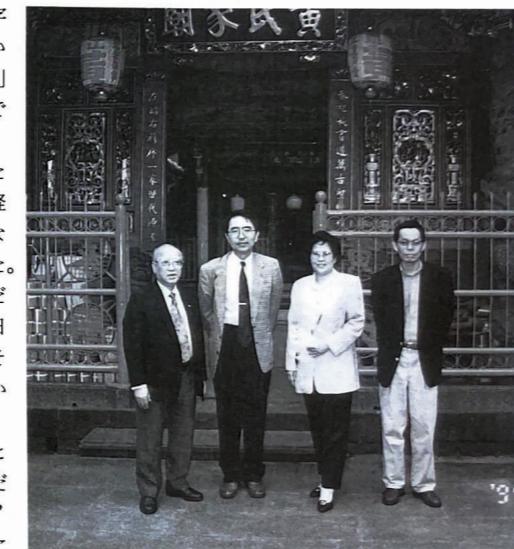
入口には「江夏黄種徳堂大宗祠」と書いてあった。正面奥の祭壇には、数多くの祖先たちの位牌がずらりと並んでいた。毎年ここで祖先の祭りが行われるのである。

江夏というのは、春秋戦国の時代、今から2500年も前に黄氏の先祖たちが住んでいた土地（湖北省江夏県。河南省江夏県ともいう）の名前である。数千年の歴史のなかで、黄氏の子孫たちは中国各地へ広がり、さらに福建省・広東省を経て、海外へと移り住んでいった。移住先の各地で、親族同士の相互扶助のために組織した宗親会は、現在では香港、シンガポール、フィリピン、アメリカなど世界各地に分布している。

台北で見せもらった資料の中に、フィリピンの宗親会が発行した冊子があった。その表紙の英語表記を見て私ははっとした。Federation of Huang, Uy, Ng and Wong Clan's Association in

the Philippines と書いてあるではないか。中国語は方言によって発音が大きくちがう。名前の読み方も例外ではない。ファン、ウイ、ン、ウォンなど全然違う発音であっても、文字で表せばいづれも“黄”であり、その人々は互いに親族なのだ。その瞬間、トロントのNgさんのことを思い出した。あの時、彼は「ゴー（黄）」と言ったのに、私の耳はそれを「ゴー（吳）」と聞き違えてしまったのだ。

24年も前の誤りを訂正しながら、中国文化とは文字の世界なのだと、つくづく思った。



魅力的!?な西条キャンパス

小 濱 早希子（教養教務係）

最近の私の気に入りは、夏を前にした鏡山公園の木々の鮮やかな緑色。朝、大学へ向かうバスの車窓から鏡山公園をぱーっと眺めるのがいつの間にか私の日課になっていた。鏡山公園は四季の変化に敏感だ。春は桜が咲き乱れ、秋は見事な紅葉、冬は一面の雪化粧と、季節によって実にさまざまな表情を持っている。自然の色はどんな色でも美しいが、特に私が好きなのがちょうど今の季節のみずみずしい樹木の緑である。鏡山公園だけではない、この西条キャンパス周辺にも新緑の美しい季節は訪れている。私が就職して2年3か月経ったが、思い起こせば就職した頃は、とても周囲を取り巻く自然の美しさに酔いしれる余裕などないような状態だった。

2年3か月前。
私は移転したばかりの総合科学部に勤務することになった。実は私、就職するまで一度も西条に来たことが無かったので、田舎っていうけどどれくらい田舎



なんだろう、新しい西条キャンパスはどんなところだろう、などと期待と不安が入り混じった状態で西条へと向かった。総合科学部前に到着してまず私の目に飛び込んできたものは、砂。辺り一面砂と泥。ぶどう池を挟んで工学部、理学部側は移転して久しいので、もうきれいに整備されていたが、総科周辺はこれからようやく環境整備という段階で、でんとそびえたっている講義棟事務棟以外は全部土という、今となっては信じられないような光景だった。総科周辺でのこぼこ道と砂利のせいでのおろしたてのパンプスは就職一日目にしてボロボロになってしまった。大学周辺にはお店も何もないし夜になると真っ暗だし、

何でまたこんな不便なところに広大は移転してきたんだろう、絶対東千田の方が良かったのに……という思いで一杯になった。辺り一面にむきだしになっている黄土色の土を眺めていると、就職したばかりの不安な心境が倍増して何だかとても心細くなり、広島市内の賑やかさが無性に恋しくなった。

それから2年。あの頃のことが遠い昔のように思える。黄土色の土だらけだった総科周辺も、今ではきれいに整備されている。その2年のうちに、いつに間にか私の考え方を変わっていた。便利で不自由の無い都会よりも、ちょっとくらい不便でも自然に囲まれている方がずっと魅力的だ。毎日、鏡山公園を眺めては、その自然の美しさに心が洗われる思

がする。キャンパス内に咲いている小さな草花でさえも私の心を和ませてくれる。自然が人間に及ぼす影響というものはとても大きいと私は思う。疲れて乾ききった心には

うるおいを与え、心身をリラックスさせ、リフレッシュさせてくれる作用があるのだ。そういう意味で、この西条キャンパスは自然と隣あわせのとても恵まれた環境の中にあるといえよう。便利さだけを追及していた2年前の私は、こんなに近くに自然があるのに、それに気づかないでいた。これから先西条は、便利さを追及しながらどんどん栄えていくであろう。しかし、人々の心が乾ききってしまわぬためにも、自然の美観を損ねることのないよう、自然とうまく融合し調和しながら発展して欲しいものである。（ちなみに、今日の天気は雨。雨で遠くの山々が霧に煙って見えるのもまた美しい。）

私はお化けじゃありません……

ノール・アイザ・アバズ（社会科学コース2年）

突然、ラジオからコーランの音が耳の中に入ってきて、目覚まし時計もいつものように大きい音で私を起こしてくれた。夢から覚めて、ラジオと目覚まし時計をOFFにして、時計の針を見つめる。ああ……もう4時半だ。シャワーを浴びた後、お祈りをする前に清潔にしておく。私はイスラム教徒であり、イスラム教の一つの教えでは、毎日必ず5回お祈りをしなければいけないとのこと。清潔にした後、早く部屋に戻って、時間通りにお祈りをする。お祈りは、時間が決まっていて、その間にしなければいけない。出来るだけ早くした方がいい。

お祈りしたところで、ガラス窓から外を見る。雨がまだ降っている。もう一週間雨が続いている。テレビの上に置いた写真を見ると、マレーシアにいる家族のことを思い出してしまう。私が日本に暮らし始めてからもう一年ぐらい経っている。その一年間の間に色々なことがあって体験した。ときどきおかしいこともあった。もちろん面白いことばかりではなく、苦しいことも結構あった。

急に、去年あった忘れない出来事を思い出して、そのことのおかしさをこらえる。私はイスラム教に属して信仰している。どこへ行っても、どの国にいても、どんな状態であっても、ずっとイスラム教徒であり、宗教の決まりを守って暮らしている。だから大学

にいるときもお祈りをしなければいけない。どこでもきれいな場所である限り、お祈りができる。広島大学では、お祈りの特別な場所がないから、私は普通西体育館のシャワーでお祈りをする。

ある日、私はちょっと友達とおしゃべりしそうなだけで、お祈りをするのが遅れてしまった。清潔にした後、お祈りをするため特別な白い服を来て、メッカを向いてお祈りをした。5分たった後、ちょうどお祈りが終わったところで、2人の学生の声が聞こえた。1人の学生は私のところへ近づいてきて、友達と話しながら、シャワーのカーテンを開けてしまった。カーテンを開けたとたんに、私がお祈りの服を着たままなのを見ると、彼女は“はあ……お化け!!”と驚いて大きな声を出した。ああ……

しまった！ 彼女は友達のところへ走っていて、本当にびっくりしていた。私もびっくりした。でも……おかしかったから、私は笑いだしてしまった。“お化け”的服を脱いだ後、彼女のところへ行って、本当のことをちゃんと説明してあげた。幸いにも、彼女の友達はちょっとイスラム教のことを知っていた。私たちはお互いに謝った後、友達になった。

皆さん、もし西体育館へ行って、私を見つけても驚かないでください。私はお化けじゃありませんよ。ただお祈りをするだけだわ……



先輩による生々しいコース紹介

入りたいコースはぼやっと決まっているけれど実際何を勉強できるのか、何が研究されているのかはわからないことが多い。それだけならば、オフィシャルなコース紹介で足りるかもしれないが、「実際のところ」、「雰囲気」となるとほとんどわからない。そこで飛翔では1年生のコース決定はもちろん2、3年生の研究室決定にも役立つ情報を提供しようと考査ました。アンケート形式で3年生を中心に各コース数人の割合で答えていただきました。この生々しい情報を活用してみてはいかがですか。

質問項目は以下の通り

- ①1年次の時、コース選択にあたって、あなたはどんなことをしようと思ってコースを選ばれましたか？
- ②現在、あなたのもっとも興味のある分野（研究テーマ）は何ですか？ それは1年次にあなたがやろうと思っていたことと同じですか、違っていますか？ それはどんな点においてですか？
- ③現在の所属コースに満足している点・不満足な点は？
- ④これからコース選択に望む1年生に一言どうぞ。

人間文化コース

①

●社会に興味があり社会科学コースに進もうかと思ったが、ありきたりの方法で社会を捉えるのではなく、文化という面から社会を見てみたいと思ったので人間文化コースを選んでみた。出来て間もないコースだというのも魅力の一つではあった。

●学芸員になるための知識を身につけたかった。いろんな分野の知識を身につけることで視野を広げたかった。

②

●生命倫理学：1年次の時には、具体的に、何をやろうとは思っていないかったのですが、もともとは、文学系が自分は好きだろうと思っていたのが、生命倫理学という哲学系の分野がいいなと思い始めたのは、自分でも意外です。

●男性学と女性学、都市文化といった分野：1年の時には部落差別のことを研究しようと思っていた。でも、女性学と男性学という相反する学問が同時に存在しているのが面白いと思ったし、都市によってその特徴をあらわした文化が存在するのもおもしろいと思った。

③

満足している点

- 雰囲気はいいと思う。（人間関係において）
- 授業の内容もそこそこ充実しているし、結構団結力の強いコースだとは思う。

不満な点

- やりたいことが決まっていない人には、いろいろなことが出来るという利点が逆に不利に働くらしい。
- 今一つ先が見えてこない。

④

- 時間は、思っているよりもずっと早く過ぎていってしまうので、何がやりたいか、それが最終決定でなくともいいから、自分の興味があることを見つけるべくアンテナを常にはっておいてください。
- 将来の就職のこととかよりも本当に自分の興味のある分野のあるコースに進むべきだ。あと免許（教員、学芸員etc.）をとろうと思っている人はそれなりの時間割を組みましょう。後でとりたくなっても遅いから。

地域文化コース

①

- 別にこれといってやりたいことはなかったけど、地域学や歴史学に興味があったから、そのような学問を好きなようにやれそうな気がしたから。
- 私は古典音楽が特に好きだったので、それと文学的な面からだけ見ていくのではなく、当時の社会の様子を歴史学の視点も加えて研究していく面白さのないのではないかと考えていました。

②

- 現在、地理学や歴史学とかに多少の興味を持っていて、歴史学については、1年次の時と変わっていないけど、地理学と地域学の違いが分かってくるにつれて、地理学を学びたいと思うようになった。

●やはり、古典です。基本的には考え方あまり変わっていません。ただ、日本語や日本史も面白いテーマで、少し揺れています。日本語といつても、これまで習ってきた「学校文法」とは違うようなものなので難しいけどいつも新鮮な驚きがあってなかなか魅力的な分野だと思います。

③

満足している点

- 今年からは群はなくなったので広い視点で研究したいと思っている人にもお勧めです。

不満な点

- 現在、所属コースの必修の授業では、人類学や民族学の授業が多く、地理学や歴史学の授業も多少は含まれるが、割合的に少なく、自分のやりたい事と少し違うような気がする（05生）。

④

- 8つもコースがあると、あれもやりたい、これもやりたいといろいろ迷われると思います。でも、コースの実態が想像していたものと違ってたりして、やりたいと思ってたことができないということもあり得るので、教官や先輩に直接話を聞くことが大切だと思います。「本当に自分のやりたいこと」を、1年次生の間に探し出せるよう頑張って下さい。

外国語コース

①

- 当初は社会科学コースを志望していました。が、いろいろな本を読んだり、友人と話し合ったりしていく内に、生涯にわたって国際社会に携わる仕事をするには、事実関係や抽象論のみに捕らわれてはならないということに気づいたのです。そう実用語学の必要性を痛感したのは、最終的なコース志願書提出〆切の一週間前でした。群は、国際会議などで英語に次いで重要な位置を占めるフランス語を選択しました。

②

- 興味のある分野はcomputerの分野。卒論の研究テーマは「コメディが映画に与える影響」。分野は結果的に1年生の時興味のあった分野と関連があります。

③

満足している点

- スポーツ活動が盛ん。先生達が優しい。英語力が伸びた。いい人ばかりだ。

- 優秀な教授陣の教えをこうことが出来るのと、学生研究室の居心地がよいこと。（たまに片づけが悪いと叱られるが）

- 一口にフランス語といつても文学・語学・実用的な語学……といろいろあり、どの方面に進むかに関して全く制約がないので、他コースの授業と結びつ

け、独自の学問をすることができます。

不満な点

- 海外研修制度を教英にもって行かれたままになっているのは納得がいかない。

- フランス語専攻である以上、フランスに関係のある分野で卒論に取り組まなければならないのは否めませんが、人文学系であるか、社会学系であるかに閑閑としてまで制約して欲しくありません。

④

- どんな先生がいるか、どんな先輩がいるのか、外語について詳しく知りたいという人は、遠慮なくA403（学生研究室）やら各教官室をまわってください。きっと面白い話が聞けると思います。

- これから時代は、専門性を追求するだけではなく、そうしたあらゆる観点から物事をとらえる人材が必要となっていくことでしょう。そのことを念頭に置いてコースを選択しましょう。まずははじめに、今自分が最も関心を寄せている事柄を扱ったコースに目を向けてます。それから、自分の研究したい事柄と関連性を持つもの、必要なもの、役に立つものにも目を向けてます。そうして、最終的にどのコースへ進めば思うように学問を進めるができるのかよくよく検討してみて下さい。そうすれば、4年次には納得のいく卒論を書き上げることができます。

社会科学コース

①

- 1年次にとっていた一般教養の中で政治学特に興味を持ったために、社会科学コースを選んだ。1年次の時にはアメリカの政治に興味があり、それはいまでも変わっていない。

- 私は入学した当初は外国語コースに入ろうと思っていました。でもコース決定1ヶ月ぐらい前に社会科学コースの方に志望を変えました。就職を公務員関係にしようと考えはじめたからです。確かに外国語もやりたかったのですが、また社会学にも興味があつてどちらも捨て難く、結局社会科学コースに入つて外国語は外国語特別演習の授業をたくさん選択しようという結論に達しました。社会科学コースの専門の授業をとって公務員試験の勉強をしようと思っていましたが、それだけでは全然足りないので、公務員の勉強は自分でがんばらなければならないといふことがわかりました。

②

- 一年次で考えていた研究テーマと今考えているテーマは変わっていない。しかし1年次に比べるとテーマがかなり絞り込めてきている。現在、最も興味があるのは、最近の日米関係で最も重要な事項である日米包括経済協議である。その中でも自分が研究対

象として考えているのが、アメリカ通商代表部(USTR)である。何故ならUSTRに関してはこれまでのところ充分な議論はなされていない。従って、ここに主眼を置いて、日米経済協議を研究していくことで、何か新たな視界が開けてくるのではないかと思ったからである。

●私の場合、それ以外にもいろいろ興味のある社会問題がありました。ゼミ決定の前の「教官訪問」でいろんな教官と話し合っていくうちに、一番自分がやりたいことが見えてきました。私の周りの友達もたくさん関心のあるテーマがあつてなかなか一つにしぶりきれず悩んでいる人がいました。ゼミを決めるのは2年次の終わりで、その時期にテーマをしぼるのはなかなか大変ですが、ゼミに入ってからテーマを変えて別にかまわないと思います。

③満足している点

●2年次になってからも、幅広く社会科学全般にわたって学ぶことができるは、3年次後に専攻が分かれてからも生きてくると思う。何故なら、社会の中での諸現象は、個別の学問しか知らない狭い視野でしか見ることができないからである。その他には、ゼミが3年次から始まるため、卒論に結びつく研究ができる、ゼミが少人数のために、先生にいろいろと教えてもらえるなどの利点がある。

④

●1年次の時に、いろいろな分野の講義をとっておくべきだと思います。そうしておくと、コース選択をするときに、自分の興味のある分野が自然と見えてくるはずです。高校までに興味を持っていたことでも大学に入って講義をとってみて研究対象としてはやっていけないのではないかと思う人が必ず出てくると思います。でも、そんなときに、いろいろな分野の講義をとっておくと、研究対象としての興味を持つことのできる分野がきっと出てくると思います。

数理情報科学コース**①**

●個人では使えない機械(ワークステーションなど)を使ってみたかった。

●コンピュータグラフィックスのことを知りたかった。

②

●研究テーマはCGの表現法、1年次にやろうと思っていたこととほぼ同じ。

③満足している点

●設備がまあまあ充実していると思う。

④

- コンピュータや数学に興味がある人はもし数学が苦手でも頑張れば何とかなるので、気後れせずに教理を選んで下さい。

物質生命科学コース**①**

●生体高分子の構造分析数学、物理学、科学的手法を用いた生命現象の解析および、生命現象の数学的、物理的証明。タンパク質および原子・分子レベルのことがやりたかった。

②

●細胞(生体中の体細胞で特殊化した細胞ではない、大きく考えると生物もしくは生命)のもつ無限の可能性およびその潜在能力を自分の目で見てみたい。生命科学という単位で見ると1年次とは180°方向が違うと思う。2年もコースにいるといろんなことが見え、考え方も変わってくる。すばらしいと思っていたものがつまらないものに見えて、くだらないと考えていたものがおもしろいと考えてくる。(しかし、僕の場合考えを変えるきっかけをくれたのは自分のコースの先生ではなく総科の先生でもなくて他の学部の先生であったが)

③満足している点

●面白いから受けたいという授業はかなり広範囲にわたって聴くことができます。

不満な点

●教官の研究内容について、もっと情報がほしい。

④

●どのコースでもそうだと思うけど、自分のコースに都合の良いことばかり言ったり、都合良いデータばかり並べ自分のところがさも素晴らしいところであるように作り上げているが、その裏の都合の悪いところは隠してあるので、そのことを考えてコースを決めてほしいと思う。

●大学を卒業した後のことを考えたら、ただ与えられた勉強をするだけでなく、これから自分はどのコースに進みたいのかぐらいははっきりしてくると思います。

自然環境研究コース**①**

●野外実習などフィールドで実際の自然の姿を観察しながら勉強したかったから。

●職を探したかった。

②

●興味のある分野として、災害の予測と対策。1年次に思っていたこととは違う。1年のときは、環境問題を勉強するなら生態学だと思っていた。今は環境問題と直接関係がないところに興味がある。

●1年の時は全く考えもしなかったことを研究している、しかし、充分満足している。生態学をベースとした環境管理、特に独立栄養生物である植物に注目している。具体的には、植物と人間の関わりのある森林公園を対象に研究している。

③満足している点

●野外実習とかで連帯感がもてる。

●広い分野の知識が得られる。

●様々な面で自由度が高い。

不満な点

●研究室に関する情報が少ない。

●欲を言えば、コース全体としてのまとまりがほしい。あまり「コース」を意識していない。

④

●自然環境コースは本当に広く浅く勉強できるけれど、自分から研究しないと得るものも少ないと思う。

●何を勉強したいか、そのためにはどういうプロセスで勉強していくかを真剣に考えること。この大学でできないのなら、他の大学の大学院を考えること。そして世の中、世界がどんどん回っているのに乗り遅れるな。自分の周りの意見も大切だが、先輩、特に院生の意見は大学人として、言葉に重みがあるので、積極につかまえて、話しかけること。

●コースを選ぶのではなく、先生を選んでからコースを選ぶ方が良いかも。

生体行動科学コース**①**

●「文系から理系に変わろう、理系になって生物学関係の勉強をしよう」細かいことを言うと、生命科学系の研究者にあこがれていたこともあり、2年生以降の専門授業で興味を持った分野があればその方面へ行って将来的に役立つ研究をしたいと思っていた。特にウイルス関係には非常に興味を示してはいた。(AIDSウイルス)

●1年生の間に、外国語コースや自然環など、いろいろ迷ったが、最終的に心理学系の授業が一番おもしろくて興味があったので生体の行動に決めたという感じ。臨床の分野に進んでカウンセラーにでもなれないかなといった気楽な考えだった。

●一般教養などで様々な分野の講義を聴講してみた上で一番興味を引いた分野が、人の行動に関するものでした。何をしよう、とはっきりテーマを決めてコースを選んだわけではないけれども、自分が「知る」ことについておもしろいな、もっと知りたいなと思えることが大切だと考え、人の行動についてもつと知りたい、考えたいという欲求にまかせてコースを選びました。

②

●1年生の時に望んでいたウイルス関係の研究は、つきつめれば、患者を正常な遺伝子の導入で治療することにもあたり、そういう面では接点のある研究についたと思っている。

●現在の研究テーマは「入眠時幻覚と注意機構」です。覚醒から睡眠への移行の過程において体験する入眠時幻覚が、下界の音刺激に対する注意を低減させる可能性があるのではないかということについて研究をしています。私は心の中で起ころる心的事象などがあつたらそれが生理指標である脳波などと客観的に測定できるもの、身体的なもの上にもはつきりあらわされるということに非常におもしろさと生体のすごさを感じていて、1年時に考えた知りたいと思うことがしたいという希望はかなえられていると思います。

③満足している点

●無理矢理にでも勉強させられる点、でも3年次になったらそうでもない。

●授業や学生に対して真剣に取り組んで下さる先生(＆院生)が多い。

●実験(心理学基礎、行動科学実習など)が厳しい分、学生同士仲良くなれる。

不満な点

●分野が限られている

④

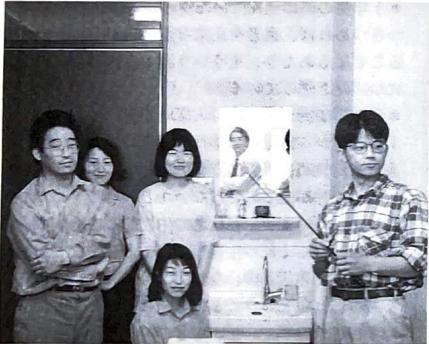
●生体の行動系は特に実験が充実しているので遊びたいときにはちょっときついけど、実のある2年目が送れるし、人によっては将来やりたいこともほぼ決まってくるかもしれません。

●就職時の有利さとか、どれだけ楽に過ごせるかとか、そういうことも考慮に入れて選択すると思いますけど、自分が興味を持って学ぼうと思えることができるコースか、ということを大切にしてほしいと思います。

研究室紹介

前回に引き続き「研究室紹介」を企画しました。前回は2つともいわゆる理系コースでしたが、今回は人間文化コース（園府寺研究室）、社会科学コース（浜渏研究室）、数理情報研究コース（秦田研究室）、物質生命科学コース（河原研究室）の4研究室を選びました。次号でも取り組む予定なので、紹介してほしい研究室、紹介してもらいたい研究室がありましたら飛翔編集委員会までご連絡ください。

園府寺司研究室



☆研究内容

- 近・現代美術／美術とその言説・制度に関する研究
- 19世紀末のドイツに起こった芸術教育と当時の美学運動との関わりについて
- 日本の現代美術（1980年代の立体作品を中心とする）
- 15世紀の北方美術について
- 19世紀のドイツのミュージアムについて

☆先生から研究室の学生について一言

- 異なった学説にぶつかると必ず調停してしまう学生
- 現代美術を研究しているが、研究の内容上なれば肉体労働者のようにになっている学生 etc.

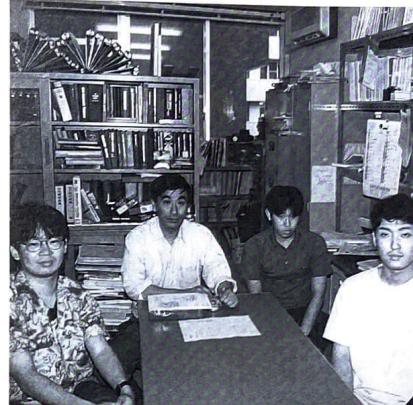
☆研究室の学生から先生について一言

- 深い洞察とかみ碎かれた議論が売り！？ 難しいことをかみ碎いて説明するのが上手です。
- さわやかな笑顔でピリッとしたコメント。いつもおしゃれな姿で登場する先生です。

☆総科生にアドバイス、研究室の宣伝など

各自、自分の好きなこと、最も関心のもてる事を自由にやっている。自分で何をやりたいかを探すことが研究の第一歩。みんな、めいめい好きなことをやっている気がします。浮き世離れしたオタク院生も多いですが、ぜひ仲間になりましょう。美術関係に興味のある方はどうぞ。どんな分野も対応OKです。学芸員になるのは考えているより大変だと思いますが、やる気のある人は一緒に頑張りましょう。

河原明研究室



☆研究内容

- 両性類変態の細胞機構および分子機構について
- 分子生物学的、細胞生物学的手法による、オタマジャクシがカエルに変態するメカニズムの研究
- アフリカツメガエルの肝臓の変態について
- 変態期における遺伝子発現

☆先生から研究室の学生について一言

ここには、かなり個性の強い学生が来る傾向があり、たいがい私はおとなしくしている。しかし、現在在籍している皆はどちらかというとまじめで、口数が少なく、私一人がしゃべっている場合が多い。近来になく、静かな研究室になっている。

☆研究室の学生から先生について一言

- とても気さくな人です。
- 実験については厳しい事を要求されたりしますが、ふだんは、生物についての楽しい話をもらっています。

☆総科生にアドバイス、研究室の宣伝など

- 総科ではかなり広い範囲の学問を要求されているようにみえるが、諸君は各自の目指すものを出来るだけ早く見つける必要があるよう思える。発生生物学は現在、革命的に発展しており、生物の進化に興味のある人に十分応えられるものになりつつある。
- 実験設備など、研究の環境は整っています。可愛いカエルやオタマジャクシもいます。
- 私たちの研究している「発生生物学」は今一番エキサイティングな学問分野の一つだと思います。生物学のフロンティアへ分け入って行きたい希望をもった学生さんが来てくれる嬉しいです。
- ツメガエルは、このあたりにいるカエルとは姿形が全然違う。興味のある人は見に来て下さい。

浜渦哲雄研究室



35 3

☆研究内容

- アジア全般を対象とした国際経済学
- 特に国際石油産業、石油メジャー、アジアのエネルギー問題

☆先生から研究室の学生に向けて一言

- 勉強しているようだがアルバイトに熱心なのが心配。
- 就職状況の厳しさを認識してほしい。

☆研究室の学生から先生に一言

- ゼミ中は楽しそうでわりと厳しいが、実は面倒見の良い先生。
- 一步外に出るとすごく優しくて、色々なところに連れて行ってくれる。
- お酒が大好きで一緒に飲みに行くと面白い。
- 先生の顔は笑っているが宿題の量には笑えない。

☆総科性にアドバイス、研究室の宣伝など

- 早く自分の進路を決め、目的に向かって努力してほしい。まだ漠然としか自分のやりたいことが決まってない人は、先生に相談するといいでしよう。
- 他のどの研究室にも当てはまらない、そんな研究をしたい人はこの研究室へどうぞ。ゼミ旅行等にも行きます。ただし、英語は勉強しておいた方がいいでしよう。
- 先生は英語がぱりぱりなので、下さる資料なども英語のものが多いです（しかも大量）。夏休みの宿題も大変かもしれません。ゼミ中の先生の鋭いつっこみにも負けず、頑張りましょう。
- 男子学生が来てくれないかなー。

森田正秀研究室



☆研究内容

- 統計学の一分野である実験計画法の中で
- （部分）釣り合い型一部実施要因計画の構築と解析の研究
 - 上記の計画に付随する組み合わせ理論の研究

☆先生から研究室の学生について一言

院の女性は大変活発である。学部の2名の学生は少しおとなしいが芯はしっかりしている。

☆研究室の学生から先生について一言

- とにかく明るい。そして親切、丁寧で頼りになる先生です。研究熱心です。
- とっても優しくて、一度も怒られたことがないです。とても几帳面で、生徒の面倒もよく見てくださいます。早口で板書も早いですが、質問に行くと丁寧に教えてくださいます。
- 分かるまで教えてくれるので、たいへんよろしいと思います。

☆総科生にアドバイス、研究室の宣伝など

- 4年間に打ち込める事を搜してほしい。また本当の意味での友人を作ってほしい。
- 研究内容が他の研究と比べてはっきりしていて、やりがいがある。先生がとてもいい人なので、オススメです。
- 数理の授業はよく理解できないものが多いと思いますが、やっぱりみんなも分かっていないと思います。しかしこの研究室に入っても必要な知識の基礎から勉強できます。森田研はその中でも先生自体優しく、内容も具体的です。学会へもしばしば行けます。研究室は広く、誰でも気軽に訪ねられ、たまり場と化しやすいです。
- あんまし頼りにならないけど、分からないことはどんどん聞きに来てください。